

## 令和7年度 卒業論文要旨

学 生 氏 名	永田 柚奈
論 文 タ イ ト ル	ジェンダーから見る社会倫理——ホロコーストにおける女性の極限 体験を手がかりに——
要 旨	<p>ホロコーストの歴史において、女性は周縁化されてきた。本論文では、第二次世界大戦期におけるユダヤ人女性・ドイツ人女性の体験を「母性」「性暴力」「語り」という三つの主題に分け、交差的（インターセクショナル）な視点を用いて再検討を行った。ユダヤ人女性には「母親としての規範」「子に対する愛着」という二重拘束が働いており、ドイツ人女性には国家による「母性」の強要がなされたことが明らかになった。また、戦時下のレイプに国家のイデオロギーや男性間の競争意識が作用していたこと、女性の加害者性・ジェンダーによる免責が見られることが示された。そして、ホロコースト史における女性の沈黙は当人の問題というよりもむしろ社会的・政治的抑圧が働いた結果であることがわかった。これらの洞察から、ホロコーストの歴史の中で、女性は歴史の一主体であり、その体験は複数のアイデンティティが絡み合っていると結論付けた。</p>